

## 「魅惑の色に惹かれて」

先生の絵との出会いは、2001年11月にたまたま立ち寄った三越仙台店のアートギャラリーでした。足を踏み入れた途端、今までに出会ったことの無い透明感に溢れた数々の絵が展示されており目を奪われました。その中に、燃えるような情熱的な赤、南欧的な明るさのなかにも気品さが漂う“コーヒーポット”から目が離せなくなり、どうしても手に入れたくなり、購入したのでした。現在リビングの小壁面になくってはならない存在で、とても気に入っている一枚です。翌年、二枚目の絵と出会いました。まさに沈み行く太陽、上空に輝きはじめてた月、その瞬間を捕えた二つの光と影が、ピラミッドを！砂漠を！人もらくだも総てを包み

仙台市 青葉区在住 上田充功



込む静寂なる世界が展開しているさまは、なんとも云えない安らぎを与えてくれる一枚となりました。近々予定されている個展での魅惑の色とのさらなる出会いと、先生との再会を楽しみにしております。



～色彩を奏でる～

2003年 晩秋



## DM作品・紹介 I



「ミレーヌの場合」20F

Paris 16区あたりだったか、制作に疲れるとブラッと立ち寄る店があった。まるで酒場というわけじゃないが、時々見かける女性は煙草を燻らせながらカードを切っている。たしか・・・ミレーヌと誰かが呼んでいた。

## 「先生の人柄にひかれて」

仙台市若林区在住 及川和代



今年は夏があったのかしらと思う間もなく初秋に入りました。修太先生の個展の時季も近づいてまいりましたネ。第一回の個展が初めての出会いでした。それは八代亜紀・フランスでの受賞を記念して個展が開催され三越仙台店へ向きました処、隣のスペースで先生の絵と出会ったのです。夕陽の赤がとても印象的で見とれていました。先生が声をかけて下さったので「この絵を窓辺にかけてコーヒーを飲みたい！」と話しました。「ボクは気に入ってるんですけど・・・」先生と会話を楽しむ、でも、つい先日絵を購入したばかりで今は買えない・・・。二年後、昼下がりのその時間・空気が止まった様な想いの「アンダルシア」次の年夕陽の美しい「地中海」を買わせて戴きました。その色彩の美しさ、まるでその絵の中に心を融け込ませる様な先生の絵は魔法の様で魅力的です。夕陽の絵はベランダから差し込む朝日の加減で時間の動きを想像させ絵の深さを演出させます。その後、勿論コーヒーもワインも楽しんでも。毎年、修太先生と絵に逢えるのを楽しみに待って居ります。



2003・10・15

K.Oikawa





世間にミレニアム騒ぎが起こった99年秋、大阪に在住の古い友人、佐藤氏よりのTEL「今度、森崎修太という画家が仙台で初めて作品展を開催することになったので、できるだけ応援してあげて欲しい」とのこと。芸術にはトンと縁のない小生、困った、困った・・・当時の職権を少々利用して地元マスコミ回りの車の手配と、会社OBの絵画同好会へのPR、知人の紹介などお役に立ったかどうか・・・初めて会場に足を踏み入れた時、地中海の風景が明るくシンプルに描かれ、透明な色彩感とファンタジックな作風、これが油絵かと心を奪われたこと・・・作品を購入されたスナックのママの店で石崎さんも加えて楽しく飲んだこと・・・あれから5年、毎年開かれる作品展を心待ちにしています。今は大阪へ単身赴任中ですが、仙台での作品展にあわ



せて帰仙し、新作を楽しみにしています。赴任先の侘しい一人住まいの部屋に、もし“修太作品”を飾ったなら、心を潤してくれる大切な宝物になるにちがいないとイメージしています・・・!



「描くことが大好き」と旺盛な創作意欲を見せる修太先生、今後益々作風に磨きをかけて、画壇に存在感をアピールしていただくことを期待しています。

## 作品紹介Ⅱ



「ムラールージュ」4F



それぞれの灯りがともし夜がはじまった。いろいろあった昼間の喧騒も出来事も月あかりは知っていて黙って見守ってくれている。あなた風の夜の間・・・をもっていますか? 「夜のやさしさに出会えたら、そんな思いが作品になった4点。



「月夜の教会」10F



### 画家の視線「シリーズ

「Une promenade la nuit / 夜の散歩道」

夜の散歩の楽しみを覚えたのはローマでの旅の時でした。スリ・置引がひとつの職業ともいえるイタリアでは、旅行者にとってはちょっとした油断であっという間に懐のサイフがなくなり置いてあったバックが人込みの中に消えてしまった! という話は多くあります。スリ置引を稼業としている彼らも夜は仕事を終え、彼らなりの夜の団樂を楽しんでる様で案外と夜の町は安全なのです。(但し、怪しい地域は危ないのですが) 夜の風景は闇の中に浮かびあがる町の灯がなんとも暖かく、その町の揺ぎ無いそれぞれの生活が営まれているのであろうと・・・昼間のいやな出来事など暗闇の空間がすべてをつつみ込んでくれ、安息と明日へのエネルギーを与えてくれるのです。旅先で「その地」の夜の「ムード」を楽しんではいかがでしょうか。



森崎 修太

### お知らせコーナ

#### 今後の「修太展」予定

- '04 4/27 ~ 5/3 日・福岡三越
- '04 6/ 1 ~ 6/7 ... 札幌三越
- '04 7/15 ~ 7/21 ... 神戸大丸
- '04 10/5 ~ 10/11 ... 広島そごう
- '04 12/13 ~ 12/19 ... 東京銀座



### 編集後記

#### 「エーゲ海の旅」

念願叶って、エーゲ海への旅に出た。直行便のないギリシャはたいへん遠く感じたけれど、修太先生の作品によく登場する、サントリーニ島とミコノス島風景は、不思議な安らぎとエネルギーで私を迎えてくれた。アジアでもヨーロッパでもない何か・・・真っ白で小さい家並みがつづく島々の連なりの向こうには、戦火があるのだという思いが人気の少なくなった海岸でフト胸をよぎっていた。事務局・石崎

